

沖縄県公安委員会定例会会議録（令和7年9月11日）

1 主な報告等

(1) 留置管理業務の各種施策の実施について

委員から、留置管理係は常に緊張感を求められる中で様々な事象に対応しなければならず、厳しい環境にあると思う。現場の声を聞き、新たに特殊被服を試験的に導入したことは、業務の効率化、職員の負担軽減につながるだろう。また、多くの職員、特に幹部昇任予定者に看守勤務研修を受けさせることは、非常により取組だ。これからも、様々なアイデアを出して留置管理業務の勤務環境の充実につとめてほしい旨の発言があった。

(2) 警察学校におけるオープンキャンパスの開催について

委員から、警察は何となく怖いところだという声を聞いたことがある。このようなイメージを払拭してもらうためにも、オープンキャンパスを開催した意義は大きい。警察学校生は、高校生とも年齢が近く、武道や食事などを通じて気軽に話し合え、交流が深まったと思う。参加した生徒が、今回の体験をクラスメイトに語ることによって、高校生の間に警察の雰囲気を伝えることにもなるだろう。警察が扱う業務は幅が広いので、体育会系以外の人材も必要としていることも伝えてほしい。今の時代は、どこの職場も若者の採用に苦慮している。採用担当者の熱意が、受験してみたいと心を動かすことにもつながると思うので、採用試験の見直しとの相乗効果により警察官を目指す人を増やしてもらいたい旨の発言があった。

(3) 令和7年上半年における人身安全関連事案の取扱い状況等について

委員から、県警においても、他県で発生したストーカー殺人事件を参考にして、自県の体制に問題はないか検証をしてほしい。人身安全関連事案は、偶発的に発生する事案と違って、被害者は日頃から悩んでいることと思う。市民目線からすれば、警察は解決の糸口として頼れる存在である。ぜひ相談窓口を広げ、男性警察官や、女性警察官、上司や部下がそれぞれの見方から組織的に検討し、的確な対応をして相談者が再び安心して日常の生活を送れるようにしてほしい旨の発言があった。

(4) 指定暴力団旭琉會三代目ナニワ一家構成員らによる強盗致傷等事件被疑者の検挙について

委員から、ほとんどの県民は暴力団等には関わりがないと思うが、存在していることに不安を覚えている人は多いと思う。県内には、大麻や笑気麻酔など、暴力団の資金源となるような違法薬物事案が発生していると聞いている。県警には、これからも悪と対峙し、取締りを強化して暴力団から市民を守ってくれることを期待している旨の発言があった。

(5) 放置違反金納付方法の拡充について

委員から、県民の意見要望に耳を傾け、決済収納業者と調整して放置違反金のコンビニ納付やスマートフォン決済の導入を図るなど、金融機関窓口にこだわらない

発想の転換が素晴らしい。県警が納付者の利便性を考えて、独自に取り組んだことは非常に評価できる。今後とも県民のライフスタイルの変化に合わせた取組を推進してほしい旨の発言があった。

(6) 出入国及び難民認定法違反（不法残留）事件被疑者の検挙について

委員から、不法残留者が残留し続けるには、居住するところや働くところなどのネットワークが必要になると思う。出入国に関しては一義的には入国管理局の対応になるだろうが、背景には犯罪組織があることも考えられ、県内の治安維持にも影響を及ぼすと思う。外国人就労者が増えている現状を認識して、県警も入国管理局と連携し、雇用者のモラル向上教育や、不法行為の取締りなどに積極的に取り組んでほしい旨の発言があった。

(7) その他

警察本部から、先日、他県で発生したストーカー等事件の検証結果がとりまとめられ、全国に対策強化の指示がなされた。県警においても、本事案を教訓とするため、まずはその事実関係の詳細を広く職員に周知、共有し、本県の体制の見直しや組織的な対応の徹底などに繋げていきたい旨の発言があった。

2 主な決裁等

(1) 警務部

- ・ 公安委員会宛て苦情の受理について
- ・ 公安委員会宛て意見要望について（2件）
- ・ 公安委員会宛て申入れについて
- ・ 沖縄県公安委員会聴聞及び弁明の機会の付与に関する規制の一部改正について
- ・ 沖縄県議会（9月定例会）補正予算（案）について
- ・ 再審査の申請に係る裁決について
- ・ 裁決書の裁決について
- ・ 審査請求の受付について

(2) 刑事部

- ・ 再発防止命令の発出について

(3) 交通部

- ・ 公安委員会宛て苦情の調査結果について
- ・ 自動車運転免許の行政処分について
- ・ 弁明書の作成について

(4) 警備部

- ・ 警察職員等の援助要求について